

2024年夏開催

Waffle Camp ホームタウン

開催レポート

はじめに

女子およびノンバイナリーの中高生を対象にIT教育プログラムの提供とキャリア支援を全国的に行う「Waffle Camp ホームタウン」を2024年7月から8月にかけて全国6都市（千葉県、千葉県印西市、新潟県長岡市、福井県、長野県上伊那地域、兵庫県豊岡市）にて開催しました。合計117名の生徒が参加し、全体満足度は平均4.73（5点満点中）を獲得しました。参加者からは、「想像よりも楽しい一日になりました！」「今日のこの体験を通して、プログラミングが身近なものだとわかったし、難しくても面白いものなんだとわかりました！！とても楽しんで体験できました！」「初めてでも分かりやすくレクチャーしていただき楽しかったです！ITの素晴らしさや自分でもものをつくる楽しさを知ることができて、文理選択の糧にもなると思います。今後の進路にも活かしていきたいです！」といった声をいただきました。

Waffle Camp ホームタウン開催の背景

Waffle Campホームタウンは、開催地域の中高生を対象に1日でHTML/CSSを用いたWebサイト制作を体験してもらう無料講座で、スキルの習得だけでなく、IT分野で働く現役の女性によるキャリア講演をプログラムに組み込んでおり、その後の進路選択等に活かせるプログラムを提供しています。

Waffleは、「IT・理系への苦手意識をなくし、関心を高める」ために2020年より「Waffle Camp」を開始し、2022年からは、今までITに触れる機会が少なかった中高生にも、広く興味を持ってもらう機会が重要だと考え、その趣旨に賛同する企業、自治体の協力の元、日本全国で「Waffle Camp ホームタウン」を無償にて開催しています。これまでに、500名弱の

中高生が参加し、参加後には理系を選択する生徒、大学でコンピュータサイエンスを学ぶ人、IT関連のコンテストに積極的に挑戦する人など多方面で活躍、IT分野のジェンダーギャップの解消と中高生のキャリア支援へ貢献しています。

Waffle Camp ホームタウン開催概要

開催期間：2024年7月1日（月）～2024年8月31日（土）

参加費：無料

参加対象：開催都市に居住地がある女子およびノンバイナリーの中高生

内容：1日でHTML/CSSを使ってオリジナルのWebサイトを制作します。また、IT分野で働く女性による「ロールモデルとの対話」を組み合わせており、参加者のIT分野への進路選択も支援します。

2024年度の取り組みについて

本年度は新たな取り組みとして、三菱みらい育成財団の助成を受け、地域や経済的格差による理系体験の機会が限られた女子中高生を支援する取り組みを実施しました。さまざまな背景がある中高生でも参加しやすいように昼食や交通費の一部支給を通じ、より多くの生徒が参加しやすい環境を整えました。さらにプログラム参加者を対象に、事後のフォローアップ講座として「Waffle Club」をオンラインで実施し、約25名が参加しました。Waffle Clubのアンケートの結果からは、ほぼ全員の参加者が「継続的にアプリづくりをしたい」と回答しており、継続的に学べる環境が整えられていることが確認されました。

開催結果

本年度の参加者は117名に達しました。昨年夏は11自治体での開催でしたが、今夏は対象地域を6自治体に絞り込みました。この背景には、①各地域でのプログラムの質をさらに高め、より充実した体験を提供するため、②これまで一緒に取り組んできた自治体での参加者数のさらなる増加を目指すため、③自治体との協働を一層深め、積極的にプログラムを共に推進していただける自治体との連携を強化するためです。長野県上伊那地域では3回連続の開催となり、地域の関心と参加意欲の高さが伺えました。また、その他の自治体においても2年連続での開催が実現しており、継続的な実施を通じて認知度が徐々に広がっています。

その結果、1自治体あたりの参加者数は昨年度の9.3人から19.8人に増加し地域でのプログラムのインパクトが一層高まっています。

各自治体の当日参加者数前年比較

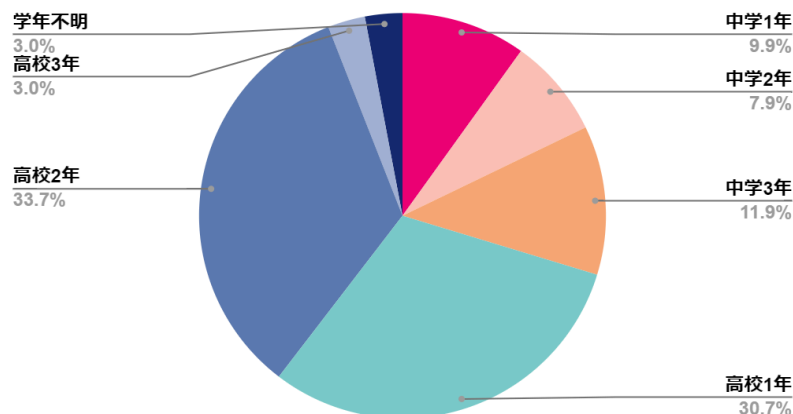
	豊岡市	福井県	千葉県	上伊那	長岡市	印西市
2023年度参加者数	4名	30名	24名	10名	8名	6名
2024年度参加者数	12名	42名	21名	19名	17名	6名

参加者について

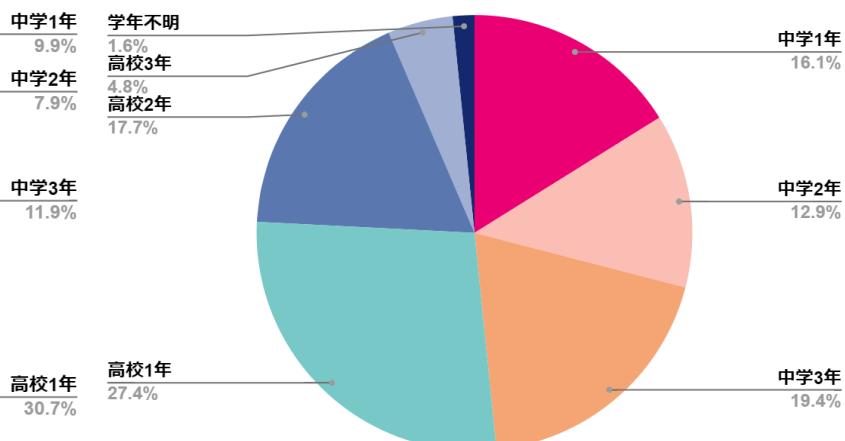
参加者の比率は中学生・高校生ではほぼ同等

約2か月にわたり全国6都市で開催されたWaffle Campホームタウンプログラムには延べ117名の女子およびノンバイナリーの中高生が参加しました。また101名の参加者からアンケートの回答があり、そのうち高校生が参加者全体の70%を占めており、学年別に見ると高校2年生が全体の34%を占めています。理由として、福井県では県の事業として高校生を中心に募集をかけたことが挙げられます（42名参加）。福井県の高校生を除外した場合は、高校生、中学生の割合がほぼ同等（各52%、48%）であり、学年別では、福井県を除くと高校1年生27%、中学3年生19%、高校2年生18%、中学1年生16%という結果でした。

Waffle Camp 参加者の学年別割合



Waffle Camp 参加者の学年別割合 (福井県の参加者を除く)



チラシを見て主体的にWaffle Campホームタウンへ参加した人数が増加

参加のきっかけとその分析

昨年度までのWaffle Campでは、参加者の63%が保護者や学校の先生に勧められて参加していたことが確認されています。今年度も、学校の先生からの勧めによる参加者が全体の43%を占めていますが、その内訳を見ると、千葉県では会場を学校に設定したこと、福井県では県の事業としての取り組みが大きく影響しており、これらの地域では先生からの声かけが参加理由の9割を占めています。

また、チラシを見て参加したと回答した参加者が32%に達し、昨年よりも増加しました。今年度はチラシのデザインを工夫し、視覚的に魅力的なレイアウトや分かりやすい情報提供を実施しました。さらに、Waffle Campの継続的な開催により地域全体での認知度も高まったことが影響している可能性があります。これらの要因が相まって、生徒自身が主体的に参加する傾向が強まっていることが伺えます。

学校との連携の重要性

アンケート結果からも明らかなように、Waffle Campの成功には学校の先生方の理解と協力が引き続き重要であることが示されています。特に、地域での継続開催を通じて、先生方からの積極的な声かけが参加者の動機づけに大きく寄与していることが確認されました。

今後も、各地域での先生方との連携を強化し、より多くの生徒が主体的に参加できる環境を整えることが求められます。

2023Waffle Campに参加するきっかけ

保護者に勧められた	37%
学校の先生に勧められた	26%
SNS、チラシ、説明会など	20%
自分で見つけた	10%
友達に誘われた	7%

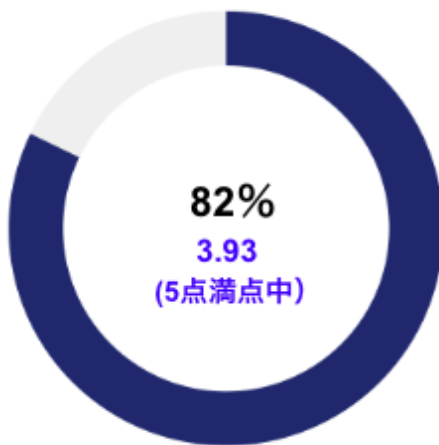
2024Waffle Campに参加するきっかけ

学校の先生に勧められた	43%
チラシ	32%
その他	11%
保護者に勧められた	10%
自治体の広報誌	3%
Waffle公式SNS	1%

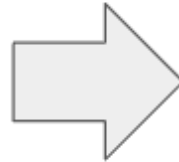
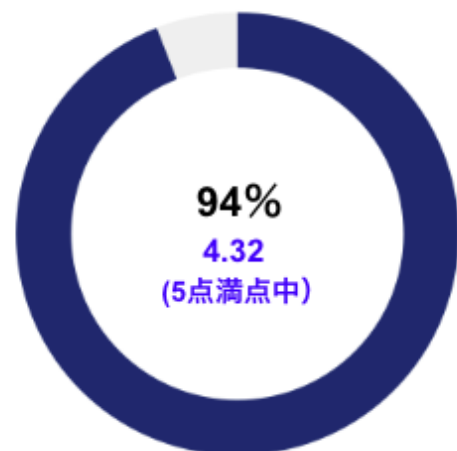
プログラミング・理系への進路についての興味の変化

プログラミングへの興味、理系学部や理系関連への興味の変化に関してアンケート調査を実施したところ、参加の前後で2つの項目で、5段階評価（1=全く興味がない、5=とても興味がある）で興味の向上という結果を得ました。参加前はプログラミングへの興味があるとした回答者は82%だったのに対して、参加後は94%に増えています。また、5点満点中参加前は平均3.93でしたが、参加後は平均4.32と10%向上しています。

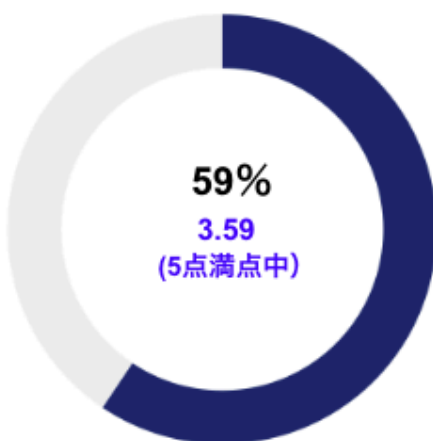
参加前のプログラミングへの興味



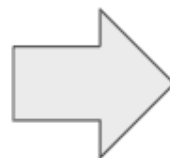
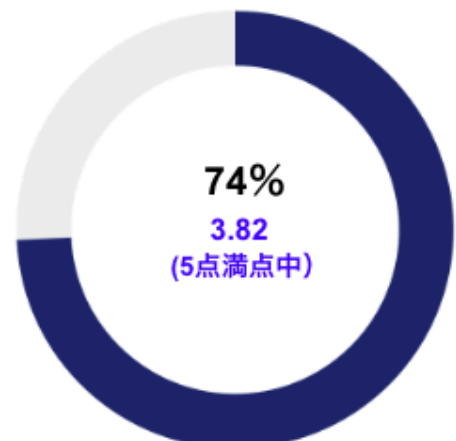
参加後のプログラミングへの興味



参加前の理系学部や理系関連の進路への興味



参加後の理系学部や理系関連の進路への興味

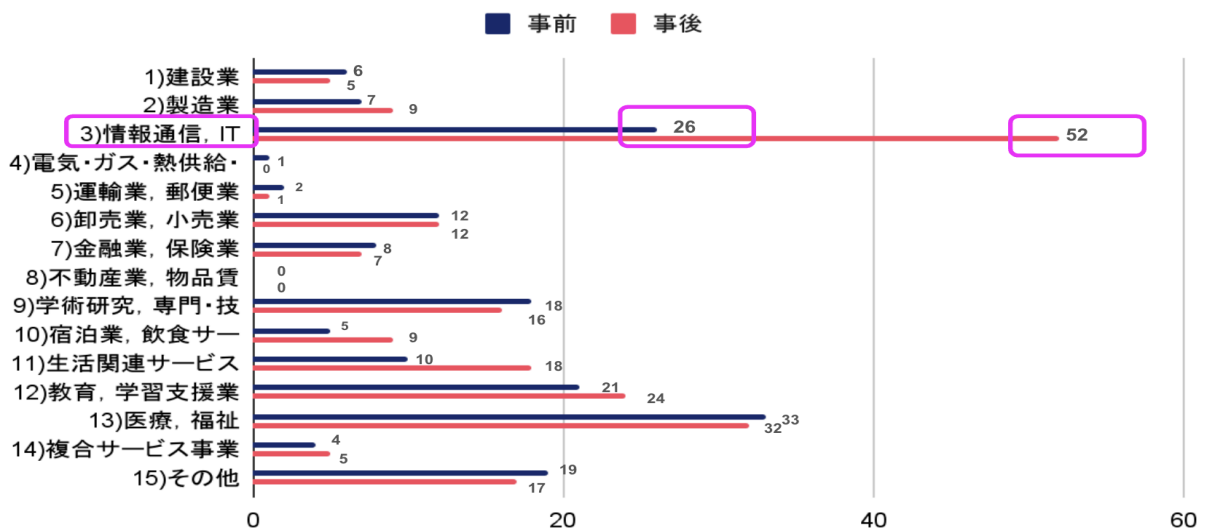


理系学部や理系関連への興味に関しても参加後には変化がみられます。参加前は理系学部や理系関連への興味があるとした回答者は59%だったのに対して、参加後は74%に増えてい

ます。また、5点満点中参加前は平均3.59でしたが、参加後は平均3.82と約11%向上しています。

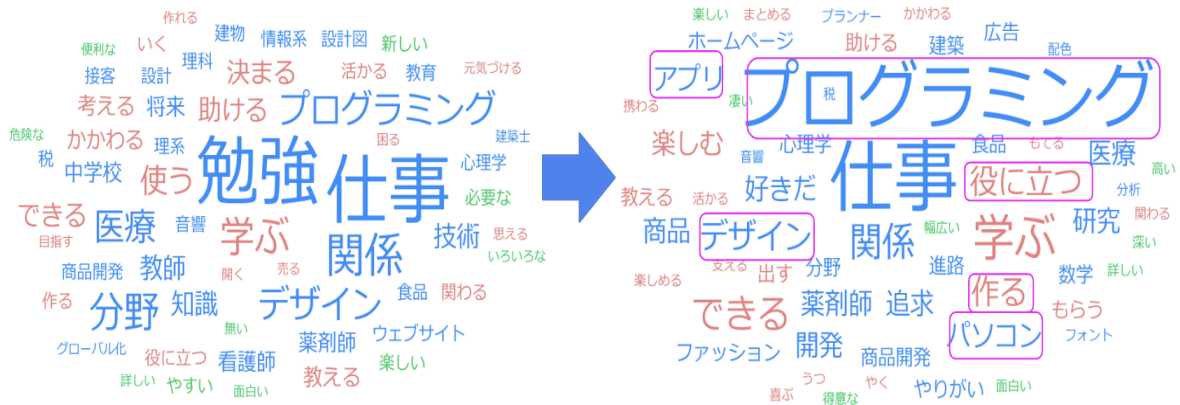
また、将来どのような勉強または仕事をしたいかという問いに対し選択してもらったところ（複数回答）、受講前は3) コンピューターやスマートフォンのサービスやネットワークの仕事（情報通信、IT）を選択した参加者が26名で全体の22%だったのに対し、受講後は52名となり全体の44%と上昇しました。Waffle Camp ホームタウンに参加したことで、将来の進路や仕事としてIT系に関心を持つようになったようです。

将来どのような分野の勉強または仕事をしたいですか？



進路希望の変化

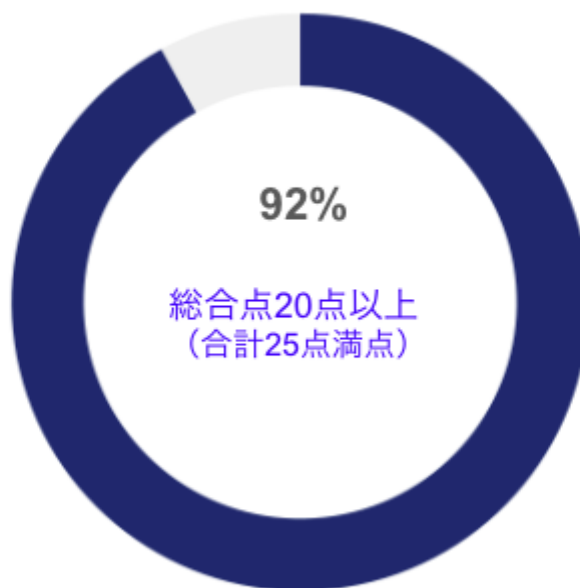
また、同質問に対して記述してもらった回答をテキストマイニングツール（User Local）を使用してテキスト解析したところ、参加後は、プログラミング、アプリ、デザイン、パソコン、役にたつ、作るといったワードが新たに加わったり、増えていることがわかりました。



参加者の97%はWaffle Campホームタウンに高評価

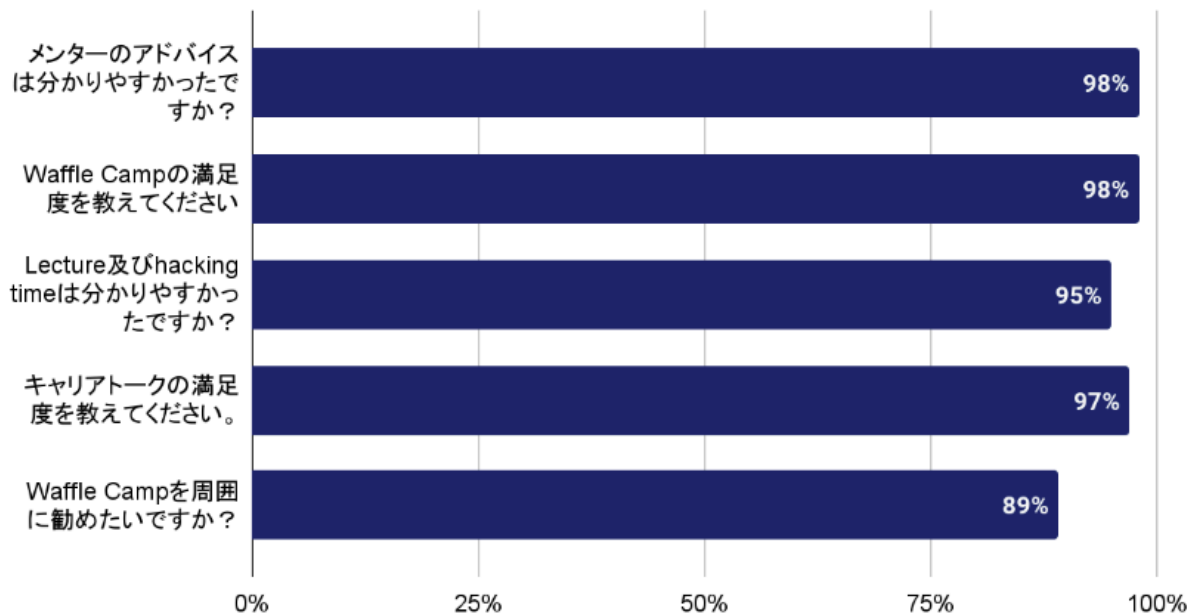
Waffle Campホームタウンの満足度に関する質問5問に関して、5段階評価（1=満足していない、5=とても満足している）にて参加者に回答してもらいました。全5問全ての合計から（25点満点）満足度を算出したところ、参加者の92%が総合点20点以上（各質問平均4点以上/5点満点中）となり、全体の満足度が高いことがわかりました。

Waffle Camp 満足度に関する 5 つの質問の総合点より算出



満足度に関する5つの質問に対して、個別の評価では、5段階評価で4以上と回答した参加者の割合はいずれの質問も9割以上となっています。メンターのアドバイスの分かりやすさに関する質問には、参加者のほぼ全員が分かりやすいと回答しています。

満足度に関する5つの質問に対する個別評価



参加者の声が見せる効果と今後の展望

今回のプログラムに参加した生徒たちから寄せられたフィードバックには、レクチャーやメンターのアドバイス、そしてキャリアトークが非常に役立ったという評価が多く見受けられました。

Lectureおよびメンターのサポート

生徒たちは、メンターが「一緒にどうやったらやりたいことをやれるかを考えてくださった」「作成に関するアドバイスをたくさん教えてくれた」といった点を高く評価しています。これにより、生徒たちは単に知識を得るだけでなく、実際のプロジェクトに取り組む中で、個々の目標に沿った具体的なサポートを受けることができました。また、「わからないことを質問したら、調べて丁寧に教えてくださった」といった声もあり、メンターが生徒の疑問に対して柔軟かつ丁寧に対応したことが、学習効果を高めたと考えられます。このよう

なメンターのサポートが、生徒たちの自信を高め、主体的に学ぶ姿勢を促進する重要な要素であったことが伺えます。特に、「優しく教えてくれてすごく助かった」という感想は、メンターとの信頼関係が学習意欲の向上につながっていることを示しています。

キャリアトークの影響

キャリアトークに関しても、非常にポジティブな反応が多く寄せられました。特に、「丁度文理選択で悩んでいたので参考になった」や「これからの自分の将来のヒントになるような内容でした!」という声は、生徒たちが将来の進路選択において具体的な指針を得られたことを示しています。さらに、「理系を選択した人の体験談や、仕事での役に立ち方などが直接聞けた」という感想からは、実際の経験に基づくリアルな情報が生徒たちにとって大きな価値を持ったことがわかります。また、「大学、就職先共にその学校、会社を選んだ理由やどんなことを学んでどんな職業についたのかなど聞くことができよかった」といった声もあり、具体的な進路のイメージを持つことができたことが評価されています。

まとめ

今回のアンケート結果や参加者のフィードバックから、Waffle Campホームタウンが地域の女子およびノンバイナリーの中高生に与えた影響が確認されました。特に、プログラミングへの関心の向上や、キャリア選択における前向きな変化が見られたことが、プログラムの効果を裏付けているといWaffle Campホームタウンのインパクトをより高めるためには、プログラミング未経験者や理系に興味のない中高生にもより広く参加を促すことが今後の鍵となります。

そのためには、単年での実施ではなく継続的に開催し認知を広げていくことが重要であり、さらに保護者や学校の先生にWaffle Campホームタウンを理解してもらうような働きかけが重要なポイントだと考えています。

今回、本講座の開催前に学校関係者に校長会などで説明会を実施し、理解を仰いだ上で紙媒体を配布する自治体がありました。参加対象者に直接案内が届くことも非常に重要と考えます。

Waffleではキャリアトークへの登壇者の適切な人選はもちろんのこと、メンターによる適切な個別対応が生徒たちの学習意欲に大きく寄与しているといえます。特に、メンターの丁寧かつ優しい指導は、学習内容の理解を深めるだけでなく、生徒たちの安心感を生み出し、自信を持って学びを進める原動力となっています。今後も、講師・メンター陣のクオリティの高さを維持するよう、IT系のキャリアに興味がある女子大学生・院生向け研修「Waffle College」の活動にも力を注いでいます。Waffle Collegeでは、参加者の学校や学部、文系・理系にとらわれず、プログラミングを学んで自分らしいキャリアを築きたいという学生のためにエントリーコース（10日間）とキャリアテックコース（5か月間）の2コースを提供しています。両コースとも参加費用は無料で開催しています。Waffle Camp ホームタウンのメンターは、エントリーコース修了生から選抜してトレーニングを実施し、Waffle Camp ホームタウンに派遣しています。今回はWaffle Collegeの修了生と大学生インターン26名のメンターが参加しました。

今後も、Waffle Campのプログラム内容の定期的なブラッシュアップにも取り組んでいきます。参加者のフィードバックや最新の教育トレンドを反映し、常に効果的な学習体験を提供できるように改善を図ります。また、デジタルツールや教材のアップデートを行い、学習環境の質を向上させることも検討しています。

協賛企業の皆さま（敬称略、順不同）

本講座の開催にあたっては、以下の企業様にご支援いただいています。Waffleスタッフ一同、心から御礼申し上げます。

スペシャルスポンサー

- グーグル合同会社（<https://g.co/grow/education-cs>）

ゴールドスポンサー

- LINEヤフー株式会社（<https://about.yahoo.co.jp/>）

Waffle Camp ホームタウン in 上伊那 協賛企業の皆さま

- KOA株式会社 (<https://www.koaglobal.com/corporate/profile>)
- タカノ株式会社 (<https://www.takano-net.co.jp/portal/field/>)
- 株式会社ヤマウラ (<https://yamaura.co.jp/corporate/about/>)

以上